

## 安住寺だより



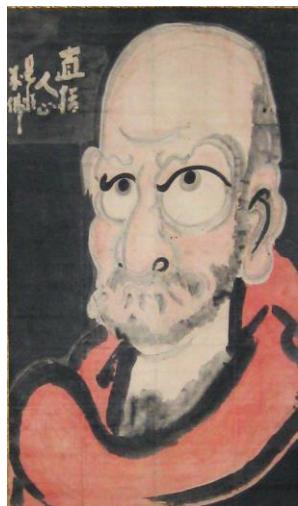
## 禅の心

布教師 衣斐弘行師  
三重県鈴鹿市 龍光寺前住職  
卒塔婆供養料、一本五百円です。出  
来るだけ事前の申込をお願いします。

4月		23日		24日	
(月)		午前十一時	午後一時	午後二時頃	午後二時頃
		合掌会総会	卒塔婆供養	説教	説教
		午後一時	卒塔婆供養		
		午後二時頃	説教		
		午後三時半	総供養施餓鬼		

## 無縁供養 説教會

## 白隱禪師没後250年忌



白隱筆の達磨図・萬寿寺蔵

本年は、臨濟宗中興の祖と仰がれる、白隱禪師の二五〇年忌正当の年になります。（一七六八年没）十二世紀の末、栄西が臨濟宗を我が国に初めて伝えました。この宗旨をはつきりと特徴づけたのが白隱禪師です。

## 衆生本来仏なり

坐禅和讃は、『坐禅』とあります。坐禅修行によつて『摩訶衍の禅定』をはつきりと体得することから始めなさい。更に「六波羅蜜」の善行を積むことによつて「仏を自覚」し、「無相・無念」の行動そのものが「蓮華國」に生きる「仏」であると教えてくれています。他のお経も大切ですが、『坐禅和讃』や『菩提和讃』を朝な夕なにお唱えする

ことをお勧めします。元気で若い内に坐禅体験をして「仏」を探してみて下さい。古来より、「一寸坐れば一寸の仏、一日坐れば一日の仏」と言つています。

## 28年度 後期義援金のお知らせ

東日本大震災義援金 40,000円  
(累計 1,043,708円)

熊本大地震義援金 42,480円  
(累計 142,480円)

今回の82,480円は、全額お賽銭です。

これまでの義援金総合計  
1,186,188円  
(内 お賽銭 709,621円)

仏とて外に求むる心こそ  
迷いの中の迷いなりける  
一休禪師



安住寺の桜 今年の満開は何日かナ

# 「禪・今を生きる」

白隱禪師二百五十年

遠諱にあたり③

「白隱禪師坐禪和讃の教え」

月のきれいな夜、外出先から帰る時のこと、長男が「お父さん知つちよる？月の光が何処から来るか」と尋ねてきた。「太陽の光が月に反射してくる」と答えると、「じゃあ、太陽の光が月に反射して地球に来るまで、どれ位かかるか知つちよる？」と。「……」な私に「8分ちょっとかかるんで」と最近の授業で教わったのか、教えてくれた。最後に「凄いなあ。なんか有難いなあ」と。

子供には、大人が忘れた豊かな感受性がある。



るが、その一節に「四智円明の月さえん」とある。この一節の前後を改めて読んでいただきたい。

無相の相を相として  
行くも帰るも余所ならず

無念の念を念として  
謡うも舞うも法の声

三昧無碍の空ひろく

四智円明の月さえん

此の時何をか求むべき

四智とは

一、大円鏡智(だいえんきょう)  
ち)。大きなくもりのない鏡のようすすべての事象をありのままに映し出す智慧。

二、平等性智(びょうどうじょう)  
ち)。私たちは自我によつて物事を差別して見ているが、すべての事象は平等であると知る智慧。

三、妙觀察智(みょうかんさつ)。すべての事象をありのままである。そのことを自覚すれば

きて、法事や月例坐禅会でもお唱えする『白隱禪師坐禪和讃』は衆生本来佛なりではじま

意訳

此の身即ち佛なり

寂滅現前するゆえに  
当所即ち蓮華国

そうして、この無相・無念で自由自在、無碍の境地であるなら、澄み渡つた空に美しく光り輝く月のように、悟りの智慧である四智が光り輝いてくる。

四智とは  
坐禅和讃では、このように衆生本来佛なりと「悟り」の世界を表しています。

さて、先日ある檀家の方に『教えて、お坊さん！「さとり」ってなんですか』という本をお借りした。臨濟宗をはじめ淨土真宗、天台宗などの僧侶の方が、「悟り」の世界をそれぞれの体験や教義を踏まえて説かれていた。

その中で臨濟宗圓覺寺派の

煩惱や執着から離れ、欲望を捨て去ることができる。どこに居ようどどんな状況にあろうと、心穏やかに安心を得ることができ

る。次に心で感じる一念一念に、良いことだ、悪いことだとどちらわらず、雑念の無い清浄な心で、無念を保つていれば、見るもの聞くもの、立ち居振る舞い全てが、仏の教えとなり、仏の姿となる。

土であり、私たち自身が仏祖と何ら変わることない尊い仏心を瞬間」の日常そのままが正に淨土であり、坐禅和讃では、このように衆生本来佛なりと「悟り」の世界を表しています。

さて、先日ある檀家の方に『教えて、お坊さん！「さとり」ってなんですか』という本をお借りした。臨濟宗をはじめ淨土真宗、天台宗などの僧侶の方が、「悟り」の世界をそれぞれの体験や教義を踏まえて説かれていた。

管長、横田南嶺老師が禪の「無事」について書かれていた。

よこたなんせい  
よこたなんせい

臨濟禪師という人は、「無事とは、求める心がおさまったときである」と、こう言つんですね。でも、まだ求めていない人に求めなくていいって言つたって、まったく無意味なわけですよ。

臨濟さんは、求めて求めて求め抜いたところを前提にして、求める事はない、と言つた。だから最初はやっぱり求めなきゃいけません。

横田老師の言われる「無事」も、白隱禪師の「衆生本来佛なり」の世界も、求めて求めて、しつかり仏道修行し、坐禅をしなければたどり得ない境地かも知れません。

しかし、その修行をするといふことが、一般的な日常生活では難しく、どうも仏教や禪が遠いものと思われがちなのかも知れません。

ところで、白隱禪師は公案

(禅問答) を体系化し修行方法を確立された方であります。その公案に有名な「隻手(せきしゆ)の音声(おんじょう)」がある。

「両掌相打つて音声あり、隻手に何の音声かある(両手を打ち合わせると音がするが、では片手ではどんな音がするのか)」という問い合わせである。

この非合理な問い合わせによって、修行者を思慮分別を超えた境地へ導くことが、この公案の意図である。

この「隻手の音声」の公案に面白いエピソードがあります。

白隱禪師のお寺の近くに、餅屋をしていた「おさん」というお婆さんがいました。このお婆さんは白隱禪師のお弟子さんであり、「隻手の音を聞いてこい」と公案を頂いたのに対し、白隱の隻手の声を聞くよりも両手叩いて商いをせよ

と、詠つて返したといいます。難

たら、「いらっしゃ、いらっしゃい」と一生懸命両手叩いて商

売すればいいということです。



白隱禪師墨跡《隻手》

久松真一記念館

## 日々是好日

● 一月五日・南禪寺管長中村文峰管長貌下の米寿のお祝

いに随喜させて頂きました。

お元気な様子に弟子一同感謝を新たにしました。● 一月十七日大般若祈祷会法要。今勤めさせていただきました。

年から拙僧の導師で無事お

尚、二月五日千光寺(八坂)。

三月一日龍雲寺(大分市白木)の大般若法要に出頭●二月二十一日南禪寺派部内

会総会に出席●二月二十八日総代会(於・安住寺)来年

度予算等について話し合いました。●三月十五日

木付講法要●この春から次男三男がそろつて幼稚園に

上がります。成長を喜びにしながら日々務めてまいります。●四月八日花まつり、本

堂前に花御堂を出してお釈迦様の生誕をお祝いします。甘茶の接待もあります。

のでお出かけください。合掌

# 近ごろ 家族葬

最近『家族葬』が流行のよう

一因ではないかと、勝手な分析をしているところです。

うかと想像できる。

各家庭にそれぞれ事情があり、

一長一短があるので良し悪しは

軽々には言えません。ただ故人

にとつては初めて最後の儀式で

あります。見方によつては、半

分は喪主・遺族の葬儀であると

も言えるので、後悔しないよう

に熟慮をして、事に臨むべきだ

きだとは思います。



初期の頃は白木仏具の祭壇が主流でしたが、この頃は生花飾りが最も一般的のようです。

そもそも、葬儀は家族近親者が集まり、故人を偲び儀式をして葬る。そこに故人や喪主、家族との繋がりの深い人々が集まり、故人の別れを惜しむ。加えて残された家族を支え励ますのが、古来からの葬儀の形式であつたようと思う。

## 安寧を祈りご厚誼に感謝

いつの頃からかは明確にできないが、葬儀がいわゆる派手になり、加えて「葬祭場」も出来て、多数の参列者が式場に入れられた。しかし、地域の濃淡もありながら、故人を全く知らないのに、式に参列することもあつたのではないか。それに伴い、香典はあるものの費用はかさみ、当然その分手間もかかり、家族は故人を偲ぶことも出来ず、只々終わつてみれ疲労困憊の葬儀でしかなかつた。これが、家族だけでひつそりと

もう一つ穿った見方をすると家族葬が増えたのには、地域の繋がりが希薄になつたことも要因の一つでしょう。他人の世話を聞けず、片付けも出来ないと、来客が有つたと言う。役所も溜息をついていた。やっぱり普段に知らせて葬儀をすれば良かつた。感感激しつつ葬儀を終えたのだが、一週間経つても毎日のように、一人二人と弔問の来客が有つたと言ふ。役所もまた、部屋に入れなかつた会葬者が依頼して葬儀を出した。それなりの付き合いがあつたとみて、部屋に入れなかつた会葬者があつた。

## ◇行事予定◇

喪主（家）自らが会葬は結構です。という態度がその後の日常の生活地域の中での活動や居場所に変化が無ければ良いがと案ずるのは、余計な心配でしようか。

あつちもこつちもの例が習慣となり、隣近所が困つていても知らんふり「余計な手出しは迷惑」が当たり前になつてしまふと、更に地域の繋がりが希薄になり、生きにくい地域になつてしまふのではと、危惧の念がつのるばかりですが…。やっぱり、余計な心配は無用ですか。（閑栖記）

うかと想像できる。

『村八分』という言葉がある。

村の秩序を破つた者に制裁として交際を断つこと。いわゆるいじめだが、それでも火事と葬儀だけは、同じ村民として手助けをするという風習です。

葬儀が村の秩序ではないが、

四月二十三日・説教会	四月八日・早朝坐禅会	四月八日・早朝坐禅会	四月八日・降誕会（花祭り）	午後二時花祭り講演会（城下町会館）
四月二十四日・合掌会総会	五月二十八日・決算報告会	五月二十八日・合掌会総会	四月十八日・ご詠歌・観音講	四月十八日・独秀流御詠歌
御詠歌・五月以降は本堂に掲示	四月二十日・写経写仏の会	四月二十日・写経写仏の会	四月二十日・写経写仏の会	四月二十日・写経写仏の会
坐禅会	四月より朝六時から	四月二十三日・説教会	四月二十三日・説教会	四月二十三日・説教会
写経の会	五月	四月二十三日・説教会	四月二十三日・説教会	四月二十三日・説教会